

## ティエリー・ユイエ（作曲・ピアノ）

1965年トゥールーズ出身。15歳でパリ音楽院ピアノ科に入学し、ピエール・サンカン、ジェルメヌ・ムニエに師事。1987年クリーヴランド国際コンクール優勝。ブゾーニ国際、日本国際コンクールにも入賞し、日本を含め世界中でリサイタル・オーケストラと協演。

近年作曲を始め、ソロ曲、声楽曲から管弦楽曲まで、約100の作品がある（カタログ：[www.musique21.com](http://www.musique21.com)）。

ラジオフランス、フランス国立管弦楽団、バルセロナ・ウィンドオーケストラ&指揮者サルバドール・ブトンス、エピナル国際ピアノコンクール、ルーマニア文化研究所、ムジカ・アクティバ・バルセロナなど重要な機関から委嘱されている。

'18-'19、ユイエ氏の管弦楽曲は、トゥールーズ・キャピトル管弦楽団他の委嘱でオーケストラ用に編曲した「星の王子さま」が既に3カ国で上演され、'21年もリール国立管、スイス・ロマンド管での上演が決まっている他、「あるレクイエム-2人のソプラノと弦楽の為の」（ラウラ・タトゥレスク、サラ・ドゥフリーズ、トゥールーズ室内管）、「森の謝肉祭」（バイヨンヌ・コート・バス地方管）、「ポルテーニョ協奏曲」（クララ・チェルナット&韓国室内管）、「セ・カント（オック語圏国歌）による幻想と賛歌」（トゥールーズ・キャピトル国立管&指揮者エンリケ・マツォーラ）など、重要なアーティストによって委嘱・演奏された。

また、ブカレスト・エネスコ国際音楽祭、北京国立舞台芸術センター国際交流祭、イタリア・フランス音楽祭、バルセロナ・オーデイトリアム、フィラーモニカ・ロマーナ、ポリネシア・タヒチ音楽祭など、世界の主要音楽祭やコンサートホールで演奏されている。さらに、修道院、オルガン研究所、声楽団体などからの委嘱もある。

最近の日本との関わりでは、2011年秋に俳句に因んだ作品の講演で横浜ピアノ祭に出演。また、ピアニストの福間洸太郎氏のリサイタルでも作品が演奏されている。

楽譜は、ルデュック、ソルダノー、ロリオ、レリア各社から出版されており、多くの録音が <https://www.leliaproductions.com> で視聴可能。

トゥールーズ地域圏立音楽院上級クラス教授。

## クララ・チェルナット (ヴァイオリン&ヴィオラ)

ヴァイオリニスト兼ヴィオリストのクララ・チェルナットは、ルーマニアの偉大なヴァイオリンスクールの代表的なアーティストの一人。

夫で作曲家・ピアニストのティエリー・ユイエと共にフランス在住。

クララ・チェルナットは、ブカレスト音楽アカデミーのステファン・ゲオルギューの弟子で、多くの分野で最高の評価を受けた。いくつかの奨学金を獲得し、ドイツのボン国際音楽アカデミーでヴァイオリンの芸術を深めることができた。

特別プログラム「ヨーロッパの最も優れた才能」(イゴール・オジム教授)、その後スイス・シオンのティボー・ヴァルガ高等ヴァイオリン学校(ティボー・ヴァルガ教授)でディプロムを獲得。

クララ・チェルナットのキャリアは、J.S.バッハ国際とアンドリア市国際の両コンクールで1位を獲得して始まった。その他モーツァルト特別賞、クロスター・シェンタル国際コンクール2位などを受賞。

彼女はソリストとして、モネ劇場(ブリュッセル)、ソウル・アーツセンター(韓国)、シャトレ座(パリ)、カタルーニャ音楽堂、リセオ劇場(バルセロナ)、北京国立舞台芸術センター(NCPA)、フィラルモニカ・ロマーナ(イタリア)、交流フェスティバル(中国)、エネスコ国際フェスティバル(ブカレスト)、テアトロ・グラン・レックス(ブエノスアイレス)、フィラルモニカ・リマ、キングス・プレイス・フェスティバル(ロンドン)、アカデミア・サンタ・チェチリア(ローマ)など、世界中の大きな会場や重要なフェスティバルで歓迎されている。

オーケストラのソリストとして、彼女はメインのヴァイオリン協奏曲だけでなく、ヴァイオリンやヴィオラの新作を、キャピトル・トゥールーズ管、ポー=ペイ・ド・バーン管、トゥールーズ室内管、韓国室内管弦楽団、スロヴェニア国立ラジオ管弦楽団、カメラータ・レガラ、ルーマニア国立ラジオ管弦楽団、エンポルダ室内管弦楽団、フィラルモニカ・バナトゥル・ティミソアラ、バルセロナ・ウィンド・オーケストラ、コルシカ・アンサンブル・オーケストラなどの有名なアンサンブルと協演している。

多数の放送がクララ・チェルナットに捧げられている(KBC1 TVソウル、フランス3、BBC、ラジオフランス、CCTVチャイナ、スロヴェニアラジオTV、RAI、ドイッチェ・ヴェレ、ラジオルーマニア、TVR)。

幅広いレパートリーと、美しくて珍しい作品に対する趣向は、彼女に満場一致の評価をもたらしている。エネスコ、ブロッホ、トゥリーナ、クンツ、ベートーヴェン、ブラームス、フォーレ、リスト、サン=サーンス、ユイエのCDとDVDは、批評家によって温かくレビューされている(テレマ・イベント、5ディアパソンス、クラシカ推薦盤、ピアノマガジンの「お気に入り」、フランスミュージックの「チョイス」)。ルーマニアのラジオのための彼女の録音はゴールドフォノテークに入選した。

彼女はまた、ヴァイオリニストとしてもヴィオリストとしても、非常に人気のある室内楽アーティストである。

特にジョルジュ・エネスコの音楽のお気に入りの演奏家として認知されている。

ピアニストであり、人生と舞台でのパートナーであるティエリー・ユイエとデュエットを設立、世界中で演奏し、コンサートホールやインターネットで音楽愛好家から満場一致で賞賛されている。

クララ・チェルナットは、トゥールーズ音楽院の上級教授であり、ヴァイオリンとヴィオラのマスタークラスを頻繁に行っている。

## アルヌルフ・フォン・アルニム（ピアニスト）

1947年生まれ、1952年に最初のピアノレッスン、1962年から1966年までフランクフルトのヨアヒム・フォルクマンの弟子、1966年から1970年までフランクフルトでA.レオポルダーに師事。

1970年にドイツ国家研究財団から奨学金を授与され、パリでピエール・サンカンに師事。1972年から1976年までシュトゥットガルトでユルゲン・ウーデ、ドラ・メッツガー、ギュンター・ルーエックに師事。

クラウディオ・アラウ、ヴィルヘルム・ケンプなどのマスタークラスで学ぶ。

以下を含む国際コンクールの入賞者

一等賞 ヴェルチェリ「ヴィオッティ」、

一等賞 バルセロナ「マリア・カナルス」、

三等賞 ボーゼン「ブゾーニ」、

およびその他の賞 ナポリ「カゼッラ」及びジュネーブ

ほとんどのヨーロッパ諸国、アメリカ、日本でリサイタル及びオーケストラのソリストとして出演、ラジオとテレビで演奏、LPとCDに録音。

室内楽活動は、F.P.ツインマーマン（ベルリン・フェスティバル、シュヴェツツインガー・フェスティバル、ルートヴィヒスブルク・フェスティバル・アムステルダム、ハンブルク、ケルン、モスクワ、サンクトペテルブルク、リガなどの都市）、ニューヨークのカート・ニッカネン（オスロ、ベルリン、ルートヴィヒシャーフェン）、ロンドンのブロードスキーカルテット、チェリストのジュリアス・バーガー、マリア・クリーゲル、イヴァン・モニゲッティ、そしてダヴィッド・ゲリングス、ヴァイオリニストのヴァレリー・クリモフ、サシュコ・ガブリロフ、ウルフ・ヘルシャーその他多くの演奏家のピアニストパートナーとして行う。

1977年からフランクフルト音楽アカデミーで教職に就き、1980年からドルトムント音楽アカデミーの教授、エッセンのフォルクヴァング音楽大学教授、東京の武蔵野音楽大学客員教授、ミュンヘン音楽大学教授を歴任、現在はミュンスター音楽大学と大阪音楽大学の客員教授。

ドイツ、日本、韓国、イタリアで定期的にマスタークラスを開催、その他、米国、ロシア、中国でも開催（北京国立音楽院、武漢音楽院、青島サマースクール）。

1989年にイタリア・チェルヴォ国際夏期アカデミーを創設し、芸術監督を務める。重要な国際ピアノコンクールの審査員メンバー。ドイツ・ドルトムントのシューベルト国際コンクール芸術監督。

## オレリアン・サブレ

パリ国立歌劇場管弦楽団首席ソロ・チェリスト

音楽家の家に生まれ、1999年にパリ国立高等音楽院を1等賞を得て卒業。同年ヘイダ・ハーマン国際弦楽コンクール優勝。アメリカのボストン大学においても研鑽を積む。フィリップ・バリー、ジャン＝マリー・ガマル、アンドレ・ディアスの各氏に師事。タングルウッド音楽祭、クナイゼルホール音楽祭に出演。

2001年から7年間パリ管弦楽団に在籍後、2008年より現職・パリ国立歌劇場管弦楽団首席ソロ・チェリスト。オペラ「ドン・カルロ」の批評でチェロソロに珍しく言及され、絶賛を博すなど活躍中。

協奏曲のソリストとして、小澤征爾指揮のパリ・バスティーユ・オペラ座における演奏会や、日本の群馬交響楽団に招聘され活躍。

ソロ活動も熱心に行い、ヴォグラー四重奏団、ヴィア・ノーヴァ四重奏団、フランス・チェロ八重奏団らと共演。

2018年に東京で行ったリサイタルは、「音楽の友」誌上に絶賛評を得た。

Suisse Galloレーベルにて、バッハ、シューベルト、グリンカ、リヒャルト・シュトラウスの作品を録音。また、Bion（美音）Recordsを主宰、ソロCDをリリースの他、ベドリッシュ弦楽四重奏団のCDがフランス公共ラジオで何度も放送され、日本の「レコード芸術」で優秀録音盤にも選ばれている。

各地のオペラ座管弦楽団の入団オーディション審査に携わり、後日の受験者へのコメントも丁寧に行っている。傾向と対策を指導した若手の合格が少なくない事から、今回のオンライン講座のテーマを決定。